

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE埼玉県2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ベルク和光西大和店	階数	地上 2F
建設地	埼玉県和光市西大和団地2666-39	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、法22条地域	平均居住人員	1,750 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,460 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2019年7月10日
敷地面積	4,737 m <sup>2</sup>	作成者	(03896-23)今西良一
建築面積	2,839 m <sup>2</sup>	確認日	2019年7月12日
延床面積	5,239 m <sup>2</sup>	確認者	クリエイティブ設計棟



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 2.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
省エネルギーに努め、地球温暖化防止に配慮している。安全に配慮しながら、全体から細部にわたり汎用品を採用し無駄のない設計をしている。	特になし	
<b>Q1 室内環境</b> 店舗の出入口には風除室を設け、外部の熱負荷を最小限にとどめている。室内汚染対策を施した材料を採用し、安全性を確保している。	<b>Q2 サービス性能</b> 耐久性、補修性に優れた材料の使用を図っている。重要機器を浸水の恐れのない場所への設置に努めている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物高さ・壁面位置等の形状や色彩に配慮して、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。
<b>LR1 エネルギー</b> 効率の高い空調機、照明器具等を採用している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水器具を採用して水資源の保護に努めている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> を削減し、地球温暖化防止を図っている。駐車・駐輪場を確保し、周辺の交通渋滞緩和に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CASベルク和光西大和店**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		-	<b>2.6</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.6</b>	0.15		-	<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40		-	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能						<b>3.0</b>	1.00		-	
2 界壁遮音性能							-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-		-	
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>1.9</b>	0.35		-	<b>1.9</b>
2.1 室温制御						<b>2.8</b>	0.50		-	
1 室温						<b>3.0</b>	0.50		-	
2 外皮性能						<b>2.0</b>	0.17		-	
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	0.33		-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20		-	
2.3 空調方式						<b>1.0</b>	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.0</b>	0.25		-	<b>3.0</b>
3.1 昼光利用						<b>3.0</b>	0.50		-	
1 昼光率							-		-	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	1.00		-	
3.2 グレア対策							-		-	
1 昼光制御							-		-	
3.3 照度							-		-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.5</b>	0.25		-	<b>3.5</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用				<b>4.0</b>	1.00		-	
4.2 換気				基準法の2.67倍以上の換気量を確保		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 換気量						<b>5.0</b>	0.50		-	
2 自然換気性能							-		-	
3 取り入れ外気への配慮						<b>1.0</b>	0.50		-	
4.3 運用管理						<b>3.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	0.50		-	
2 喫煙の制御						<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>		-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.9</b>	0.40		-	<b>2.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性							-		-	
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	1.00		-	
3 バリアフリー計画							-		-	
1.2 心理性・快適性				売場天井高:3.9mを確保		<b>2.6</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観						<b>5.0</b>	0.33		-	
2 リフレッシュスペース						<b>2.0</b>	0.33		-	
3 内装計画						<b>1.0</b>	0.33		-	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.4</b>	0.30		-	<b>3.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				基準法の1.43倍の耐震性を確保		<b>3.8</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>4.0</b>	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管:塩ビライニング鋼管、排水管:硬質塩ビ管、E不使用				<b>5.0</b>	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20		-	
2.4 信頼性						<b>2.8</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						<b>2.0</b>	0.20		-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20		-	
5 通信・情報設備						<b>3.0</b>	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均階高:3.9m以上を確保	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦壁長さ比率:0.1<0.3	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.8</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI=1.06	<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.81	<b>2.9</b>	0.50	-	-	<b>2.9</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.5</b>	0.20	-	-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.7</b>	0.60	-	-	<b>2.7</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.11	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.22	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.22	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		LGS下地+ボード類	4.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率:83%	<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器を使用していない。	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐車・駐輪スペース、荷捌きスペースの確保、導入路への配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	ベルク和光西大和店	BEE	0.8	BEEランク	★★
------	-----------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.6	+	2.6	=	6.2	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.6
ライフサイクルCO2排出率=83%			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
Q3_1	外構緑化指数:30%以上		
Q3_3.2	空地率:40%以上、水平投影面積率:50%以上、 緑被率・水被率・中高木の水平投影面積率:10%以上、外壁面对策面積率:10%未満		
LR3_2.2	見付面積率:40%未満、隣棟間隔指標:0.5以上、地表面対策面積率:25%以上、 屋根面对策面積率:20%未満、外壁面对策面積率:10%未満		

: 入力欄